



3年国語⑱

「冬のくらし②」

（「3年生みんなで、『おーいお茶俳句コンクール』
に応募しよう!!）」

～（「詩のくふうを楽しもう」4h）～



【単元の目標】

- ◎ 文章を読んで、想像したり考えたり感想をもったりできる。（思考力、判断力、表現力等）
- ◎ 文章を書き、友だちの文章や自分の文章のよいところに気付くことができる。
（思考力、判断力、表現力等）
- 文章の大体の特徴がわかり、音読することができる。（知識及び技能）

【ねらい】

「和田 誠」と「はせ みつこ」のアクロスティックと「あした」・「たいこ」・「なみ」・
「かいだん」の音読を楽しみ、詩の世界を想像する。（点線より上サテライト・下各学級）

1月17日（月曜日）2時間目	9:30～10:15
1 「冬のくらし②」として、たくさんの詩を読んだり創ったりしようという学習目標をもつ。	◎ 「3年生みんなで、『おーいお茶俳句コンクール』に応募しよう!!」
2 「和田 誠」と「はせ みつこ」のアクロスティックを楽しみ、秘密を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はい」読み・速読で、詩を音読して楽しむ。 ・ 秘密を探す。（最初の音を、つなげると意味をもつ） ・ この秘密を「アクロスティック」ということを知る。 ・ アクロスティッククイズをする。 た：たしかな ずのう だ：だんでいーな すがた ひ：ひろい ころろ ろ：ろまんちすと
3 「あした」・「たいこ」・「なみ」・「かいだん」を楽しみ、秘密を見つける。	【あした】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「リズムがよい」ということを実感させるために、「あ」にアクセントを入れて読む。（グルーヴ・エモイ） 【たいこ】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 似ているが違うことに気をつけて読む。 ・ 「どこへいく」と問う。

	<p>【なみ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「へ」の形が「何を表しているか」問う。(波) ・ 「だから、海が笑っている。」と落とす。 <p>【かいだん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 階段状に一文字ずつ増えて、山をつくって一文字ずつ減っていくことを知る。
4 自分の選んだひとつの詩について、各々が視写し、イメージ画を描く。(もしくは、検索する。)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つの詩を選び、視写し、イメージ画を描く。 ・ 描いたら、「私の好きな詩」という提出箱に入れさせる。
5 提出し、全体でシェアする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一覽で観せる。

【評価】

「和田 誠」と「はせ みつこ」のクロススティックと「あした」・「たいこ」・「なみ」・「かいだん」の音読を楽しみ、その中からひとつの詩を選び、想像し、絵に表している。

【ねらい】

俳句の特徴を思い出し、五・七・五で、自分の俳句を創作する。(点線より上サテライト・下各学級)

1月18日(火曜日)3時間目	10:35~11:20
1 「俳句」の秘密は、「五・七・五」で音数が決まっていること・「季語があること」を復習し、「おーいお茶」コンクールは、「川柳」であり、季語が要らないことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウォーミングアップで、「和田 誠」と「はせ みつこ」のクロススティックと「あした」・「たいこ」・「なみ」・「かいだん」の音読を楽しむ。 ・ 俳句の復習(音数・季語) ・ コンクールには、「川柳」でよいことを知る。
2 「音数を数える」・「季節の言葉を探す」プリントで、実際にやってみる。(季節の言葉は、教えるが、入っても入らなくともよいことにする。)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙のプリントを用意する。 ・ 5分後に、全員で答え合わせする。 ・ タイマーセット。
3 自分の俳句を、五・七・五で、ひらがなプリントで創作後、漢字にするとところを漢字にする。	<ul style="list-style-type: none"> 紙のプリントを用意する。 ・ 音数を数えながら、ひらがなを埋める。 ・ 漢字にするときに、漢字を調べられることを知る。 ・ 子どもによっては、イメージを先に描いてもよいことにする。
4 イメージに合った絵を描く。	
5 何作も創る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一句できたら、次の紙を渡す。

【評価】

音数を考えて、自分の表現したいことを五・七・五で表すことができる。(少々の字余り・字
 不足は、許容する。)

【ねらい】

創作した俳句の中から、一句選び、自分のいいところと友だちのいいところを探し、自分の
 文意が伝わったことを感受する。(最初は各学級・線からサテライト・次の点線から各学級)

1月19日(水曜日)5時間目	13:35~14:20
1 自分の俳句を、五・七・五で、ひらがなプリントで創作後、漢字にするところを漢字にする。 2 イメージに合った絵を描く。 3 何作も創る。 【13:50入室厳守】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の15分、創作の続きをする。 ・ 紙のプリントを用意する。 ・ 音数を数えながら、ひらがなを埋める。 ・ 漢字にするときに、漢字を調べられることを知る。 ・ 子どもによっては、イメージを先に描いてもよいことにする。 ・ 一句できたら、次の紙を渡す。
4 お気に入りの一句を選び、タブレットで撮影する。 5 自分の推し部分にピンクのラインを引く。 6 友だちと交流する話型について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明が終わってから、写真に撮って、自分のよいところにピンクのラインを引き、交流する。 ・ 話型を濃い緑の紙に書き、各担任に配っておくので、交流が始まったら、テレビに映してもらおう。 ・ 本来は、話型を子どもと創っていくが、今回は、教師提案。 ・ 話型： <ol style="list-style-type: none"> ①「これから、私の推しの一句を発表します。」 ②「はい。」 ③「～です。」 ④「私は、ピンクの線の～に～という意味をこめてつけました。」 ⑤「はい。」 ⑥(まず、自分で選んだ「いいと感じた場所」に線を引く。) 「私は、○色の線の～に～と感じました。」 ⑦「ありがとうございます。」 ⑧「これで、私の推しの一句の発表を終わります。」 ⑨「はい。」 ⑩(役割交代)
7 交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話型に沿って、交流する。

【評価】

自分の句や友だちの句のいいところを指摘して、こめた思いや受け取った感じを交換できる。

【ねらい】

推しの一句を投句し、「俳句」という日本の文化の素晴らしさを実感し、これからも、「他者に言葉で思いや考えを伝えていこう」という意欲をもつ。

(最初は各学級・点線から共学・次の点線から各学級)

1月20日(木曜日) 時間目	8:35~9:25
<p>1 自分の推しの一句を投句する。 (15分間)</p> <p>【8:50入室厳守】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任も一緒にプロセスを踏む。 (説明用に、画面に映す申し込みフォームの写真を教師用として配ります。) 「おーいお茶俳句コンクール」HP の応募フォーム (子どものタブレットでも投句できることは、動作確認済み。)
<p>2 これまで、こんな句が投句されているということをシェアする。</p> <p>3 「俳句は、『短い言葉でも、思いを伝えられる』、日本の昔からの文化である。」ことを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの受賞作を観る。 ・ よく考えて、俳句をひねり出したことを評価する。 ・ 俳句の素晴らしさを、子どもの頑張りにつなげて伝える。(和)
<p>4 単元の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作のことと交流のことと投句のことについて、ふれるように、評価の視点を与える。 ・ 各学級で、振り返りシートを配り、振り返り、提出箱に提出する。

【評価】

振り返りに、創作のことと交流のことと投句のことについての記述があり、これからも、「他者に言葉で思いや考えを伝えていこう」という意欲がみられる。

【板書】

* タブレット・画面のみ

* 今回は、アナログプリントと併用。(この形が100人超でやっていける折衷案かなあと考えています。)

【環境】

① 声・ロイロ画面: Zoom → TV

② テキストなどの学習材の送受信: 各担任から自学級の子どもへ配る。(今回は、このほとんどをアナログで紙で行います。)

* この2回線を同時に使うことにより、ロイロとズームを併用し、学年全体118人でのリアルタイム授業を実現する。



3年国語⑱

「カルタを楽しもう!!」

～(「カンジー博士の音訓カルタ」2h+2h=4h)～



【単元の目標】

◎ これまで学習した漢字の音訓を使い、読んだり書いたりすることを楽しむ。(知識及び技能)

1月26日(水曜日)5時間目	13:35～14:20
27日(木曜日)1時間目	8:40～ 9:25
28日(金曜日)2時間目	9:30～10:15
31日(月曜日)2時間目	9:30～10:15
1 カルタを作って遊ぼうという学習目標をもつ。	◎ 「この世でひとつだけの3の3のカルタを作ろう!!」
2 カルタの作り方を知る。	・ カンジー博士の読み札の同じ部分にマーカーを引きながら読むのを楽しむ。(リズムのよさを実感させるが、自分の創る読み札が結果的にリズムがよくなくと許容する。)
3 漢字を選ぶ。	・ 自分の名前の文字でもよいことにする。 ・ 違う音訓を調べる方法を教える。 ① Googleで、「古 読み」などと検索する。 ② 読み方を文にするには、「言葉のまとまり」にする必要があることを確認する。
4 読み札を創る。 (主語・述語・修飾語のある文。)	・ 読み札は、テキストで創る。
5 取り札を創る。	・ 取り札は、A4の画用紙に創る。 ・ 少なくともひと組は創る。 ・ ひと組できたら、テキストとA4の紙をを担任に提出する。
6 カルタで遊ぶ。	・ 広い部屋で取り札を広げ、タブレットで読み札を読んで、全員で行う。
7 振り返る。	・ 友だちのカードについてほめほめする。 ・ 創作と遊びについて振り返る。

【評価】

学習した漢字を使って、自分たちで創ったカルタを楽しめたか。(知識・技能)

【板書】

タブレット・画面のみ



2月

3年国語⑱

「もうすぐお別れ～3の3のよさをつなげて4年生になろう!!～」
 ～（「伝わる言葉で表そう」5h+
 「しょうかいして、感想を伝え合おう」12h=17h→10h）～



この単元の最中に、同時進行で、「あっと驚く研究を、みんなにシェアしよう!!～ありの行列7h～」のための多読をする。(2/1～28)

【単元の目標】

- ◎ 「この1年で、自分が頑張ったことや3の3で協力して頑張ったことを、価値付けて自覚して、四年生につなげよう!!」という学習目標のもと、根拠を明確に、自分の考えを友だちと伝え合う。(思考力・判断力・表現力等)
- 様子や行動・気持ちや性格を表す語句の量を増やし、文章の中で使う。(知識及び技能)
- 「根拠(事実)」と「考え」とを自分なりに「理由付け」でつなげる。(知識及び技能)

【本時のねらい】

- 「この1年で、自分が頑張ったことや3の3で協力して頑張ったことを、価値付けて自覚して、四年生につなげよう!!」という学習目標をもち、この一年を思い出す。

2月1日(火曜日)3時間目	10:35～11:20
1 学習目標をもつ。	◎ 「この1年で、自分が頑張ったことや3の3で協力して頑張ったことを、四年生につなげよう!!」
2 どんなことがあったか、思い出しメモに書き出す。	・ 青いシートの上で、白いテキストに書き出し、時系列に並べる。(時間軸のある青いフォーマットと「思い出しメモ」を用意する。
3 心に残った順番に、番号を付ける。	・ 白いテキストに①②③とメモする。
4 自分の思い出をシェアする。	・ 画面共有で、友だちの「思い出しメモ」を観て、ほしい情報を自分の思い出しメモに入れる。

【評価】

思い出しメモに「3の3を成長させたできごと」を1つ以上書く。

【本時のねらい】

- 「この1年で、自分が頑張ったことや3の3で協力して頑張ったことを、価値付けて自覚して、四年生につなげよう!!」のための文章の書き方を知る。

2日(水曜日)5時間目	13:35~14:20
5 自分の伝えたいことを相手に伝えるための方法をゲットしようという観点で、教科書P.105~を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ テキストを写真で取り込む。 ・ 例文を比較し、よいところを出し合う。 ・ くわしく伝えるためには、「だれが」・「いつ」・「どこで」・「だれと」・「どうして」・「どのように」があることより伝えることを理解する。(全部である必要がないことを付け加える。) * 壁面(「だれが」・「いつ」・「どこで」・「だれと」・「どうして」・「どのように」)参照。
6 「思い出しカード担任」で一番印象的だったことを詳しく書いてみる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黄色い「事実(根拠)」カードを配る。(単語だけの「思い出しカード担任」も配る。) ・ これを「事実」・「根拠」というのであると確認する。 ・ 「思い出しカード他人」をまずコピーする。 ・ これに付け加えていく。 ・ ひとつひとつ発表ごとに一緒に付け加え、加えたものにマーカーを引く。(ピンク)
7 自分の思い出しカードの事実を詳しくする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとつひとつ発表ごとに線を引いていく。 ・ このように、思い出しカード①と②と③を詳しくする。

【評価】

- 「思い出しカード西川」に、様子や行動・気持ちや性格を表す言葉を付加する。

【本時のねらい】

- 「この1年で、自分が頑張ったことや3の3で協力して頑張ったことを、価値付けて自覚して、四年生につなげよう!!」のための「3の3」の文章を書く。(練習学習)

3日(木曜日)1時間目	8:40~9:25
4日(金曜日)2時間目	9:30~10:15
8 思い出しカードの「事実」に正対する「考え」を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黄色の「思い出しカード担任」の「事実」に対して、自分なりの「考え」(緑色)を書く。 ・ 書けない場合は、「考え担任」を参考にさせる。
9 「事実」と「考え」とを結ぶ「理由付け」の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「事実」を中心に、イメージマップを広げる。 ・ 「事実」と「考え」との間に、「理由付け」を水色のテキストで、入れる。

10 「事実担任」に、「考え」をつなげてみる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「事実」(黄色)・「理由付け」(水色)・「考え」(緑色)に筋道を通っているかどうか確かめる。
11 「事実」と「考え」間に「理由付けカード」を入れてみる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筋道が通っていたら、テキストの右上矢印をつなぐ。
12 自分の思い出しカード①の「事実」に正対する「考え」を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黄色の思い出しカード①の「事実」に対して、自分なりの「考え」(緑色)書く。 ・ 書けない場合は、手を挙げさせ、口頭作文で支援する。
13 自分の「事実」カードに、「考え」をつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「事実」を中心に、イメージマップを広げる。 ・ 「事実」と「考え」との間に、「理由付け」を水色のテキストで入れる。
14 自分の「事実」と「考え」間に「理由付けカード」を入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「事実」(黄色)・「理由付け」(水色)・「考え」(緑色)に筋道を通っているかどうか確かめる。 ・ 筋道が通っていたら、テキストの右肩をつなぐ。

【評価】

「事実」・「理由付け」・「考え」に筋道が通っている。

【本時のねらい】

- 「この1年で、自分が頑張ったことや3の3で協力して頑張ったことを、価値付けて自覚して、四年生につなげよう!!」のための「3の3」の文章が筋道を通っているか確かめる。(練習学習)

7日(月曜日)2時間目	9:30~10:15
15 「事実」・「理由付け」・「考え」の後ろに「これから」を付加する。 (主語・述語・修飾語のある文。)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「これから」について、付加することにより、全体の文章を見直す。 ・ 推敲し、修正したところの色を変える。
16 提出箱に出し、シェアする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出箱に修正したものを提出し、発表する。
17 相互評価し合う。(「次に生かす」視点で。)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考にしたい言い方を3つ選び、「よさ」を述べ合う。

【評価】

友だちを評価することにより、友だちの自己肯定感を上げる。友だちに評価されることにより、自分の自己肯定感を上げる。そして、「自分自身の成長」に向き合おうとする。

【本時のねらい】

- 「この1年で、自分が頑張ったことや3の3で協力して頑張ったことを、価値付けて自覚して、四年生につなげよう!!」のための「自分」の文章を書く。

8日(火曜日)3時間目	10:35~11:20
9日(水曜日)5時間目	13:35~14:20
10日(木曜日)1時間目	8:40~ 9:25
18 自分の思い出の事実を取り出し、詳しく書く。	・ 壁面を参考に、「自分を成長させた事実」を思い出し、詳しく黄色のテキストに書く。(少なくとも1枚)
19 思い出しカードの「事実」に正対する「考え」を書く。	・ 黄色の思い出しカードに対して、自分なりの「考え」(緑色)を書く。 ・ 書けない場合は、手を挙げさせ、口頭作文で支援する。
(20 事実カードに、「考え」をつなげてみる。)	(・ 「事実」を中心に、イメージマップを広げる。) ・ 「事実」と「考え」との間に、「理由付け」を水色のテキストで、入れる。
21 自分の「事実」と「考え」間に「理由付けカード」を入れる。	・ 「事実」(黄色)・「理由付け」(水色)・「考え」(緑色)に筋道が通っているかどうか確かめる。 ・ 筋道が通っていたら、テキストの右上矢印をつなぐ。

【評価】

「事実」・「理由付け」・「考え」に筋道が通っている。

【本時のねらい】

- 「この1年で、自分が頑張ったことや3の3で協力して頑張ったことを、価値付けて自覚して、四年生につなげよう!!」のための「自分」の文章が筋道が通っているか確かめる。

14日(月曜日)2時間目	9:30~10:15
22 「事実」・「理由付け」・「考え」の後ろに「これから」を付加する。 (主語・述語・修飾語のある文。)	・ 「これから」について、付加することにより、全体の文章を見直す。 ・ 推敲し、修正したところの色を変える。
23 提出箱に出し、シェアし合う。	・ 提出箱に修正したものを提出し、発表する。
24 相互評価し合う。「次に生かす」視点で。	・ 参考にしたい言い方を3つ選び、「よさ」を述べ合う。

【評価】

友だちを評価することにより、友だちの自己肯定感を上げる。友だちに評価されることにより、自分の自己肯定感を上げる。そして、「自分自身の成長」に向き合おうとする。

15日(火曜日)3時間目	10:35~11:20
25 「自分の成長」もしくは、「3の3の成長」のどちらかを選び、先生に伝える文章を、ひとつにまとめる。	<ul style="list-style-type: none">・ 他者の視点で、もう一度文章を見つめる。・ 「先生へ」・「〇〇より」の文章とする。・ 先生へのコメントも書いてよいことにする。
26 振り返る。	<ul style="list-style-type: none">・ 振り返りの視点を明示する。<ul style="list-style-type: none">* 思い出す。* くわしくする。* 「事実」と「考え」とをつなぐ。・ この単元での自分の成長について振り返る。・ 翌日、シェアすることを予告する。

【評価】

単元全体を振り返り、本単元での自分の成長を自覚する。

【板書】

タブレット・画面のみ